



千里中央病院における骨粗鬆症治療



整形外科部長

藤田 良

「骨粗鬆症って、年をとればみんななるものだから、気にしなくてもいいじゃない？」と思ってはいませんか？

骨粗鬆症になっても、骨折をおこすまでは痛くも何ともありません。でも、いったん骨折を起こすと、要介護状態になってしまうことが多いのです。

特に大腿骨近位部骨折を起こすと、半数の患者さんで歩行能力が元に戻らず、1年後1割の患者さんがなくなってしまうといわれています。

女性では転倒、骨折は要介護状態になる原因として認知症に次ぐ第2位なのです。

認知症は予防が難しい疾患ですが、骨粗鬆症には幸いにも確立された治療法があります。

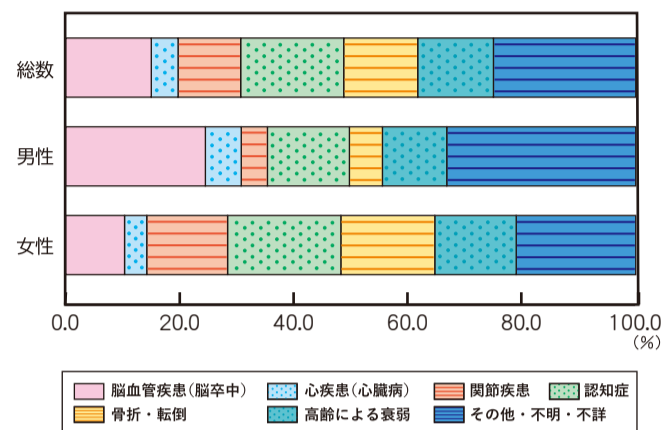
骨粗鬆症治療でもっとも効果的なのは、まず骨形成促進薬を使用し、その後骨吸収抑制薬に切り替えていくという逐次療法です。

当院回復期病棟では、近隣の急性期病院から多数の脊椎圧迫骨折患者を受け入れています。我々は入院中に積極的に骨形成促進薬であるテリパラチド製剤を開始し、可能な限り退院後も継続していただけるようかかりつけの病院にお願いしています。

大腿骨近位部骨折の患者さんの8割で過去に脊椎圧迫骨折を起こしたことがあることが知られています。脊椎圧迫骨折の段階で逐次療法を開始することにより、後に続く予想される大腿骨近位部骨折の予防にもつながります。

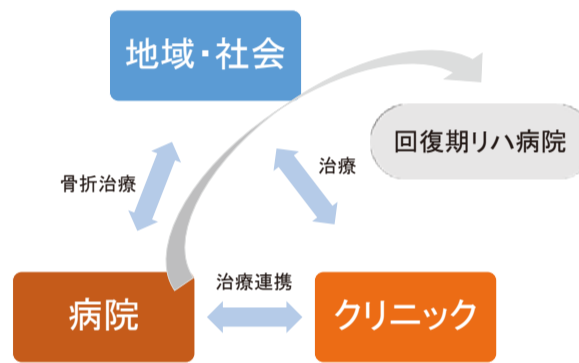
当院に入院されたことが患者さんの健康寿命を伸ばすきっかけになれるように、今後もこの取り組みを継続していきます。

65歳以上の要介護者等の性別に見た介護が必要となった主な原因



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(令和元年)
(注)四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。
令和4年版高齢社会白書より

骨粗鬆症リエゾンサービス



こころとからだのつらさを やわらげる緩和ケア

——がん性疼痛看護認定看護師の
体験を通してお伝えできること

がん性疼痛看護認定看護師
檜垣 明日香



私は、自分の身内ががんになった体験と沢山のがん患者さんとそのご家族と出逢いながら、緩和ケアに10年以上携わって参りました。

緩和ケアとは、重い病を抱える患者さんやそのご家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケアのことをいいます。

身体的なつらさだけでなく、こころのつらさや経済的な問題などは生活に大きく影響します。つらさと共存して過ごされる患者さんにご家族の傍らで思うことは、身体的なつらさがやわらぐと、ご自身と向き合う余裕ができ、人生の課題を前向きに考えていくことができるように感じています。つらさが和らぎ、その人らしく過ごせることを知っているのも、その場面をまた共にしたいと願いながら、がん患者さんにご家族のサポートを続けているんだと思います。

緩和ケア病棟では、アロママッサージのリラクゼーションがあり、その匂いにスタッフも癒されています。コロナ禍で見学はできませんが、緩和ケア病棟の患者さん、スタッフは割と明るく過ごしています。患者さん・ご家族の思いや希望を大切にしながら、穏やかな時間が持てるよう、多職種と連携しサポートしていきたいと思っています。

また、がん患者さんは、緩和ケア病棟だけでなく、一般障害者病棟、外来のがん患者さんのこころのつらさの軽減を目的としたがん患者相談が可能です。担当者は、がん関連の認定看護師、公認心理士です。お気軽にご相談ください。



■ 病院概要

診療科 / 内科、神経内科、外科、整形外科、
脳神経外科、リハビリテーション科

病床数 / 400床

- ・一般障害者病棟：275床
- ・回復期リハビリテーション病棟：100床
- ・緩和ケア病棟：25床